

お母さん、ぼくがいるよ

ぼくは、自分の部屋があるのにその部屋を使っていない。ベッドも置いていないし、何も置いていない。いつもかいらりとれんりと寝ている。なぜなら、かいらりとれんりが大好きだから。

ぼくは五人兄弟の一番上でかいらりとれんりは四番目と五番目の弟で双子だ。今、二才五ヶ月でとてもかわいければ大変なこともある。お父さんが仕事でいない夜、れんりが喘息でしんどくて一晩中ずつと泣いていて、その泣き声で朝早くから目が覚めた。うす暗い光の中でお母さんはれんりを抱っこしながらとても疲れた様子でぼくに言った。

「稜くん、眠れた？うるさくてごめんね。」
ぼくはお母さんに

「うん、ぼくは寝たよ。お母さんは？」
と聞くと、お母さんは、

「ほとんど寝てないかな。」と言った。

だから、ぼくはお母さんに

「ぼくがれんり見とくから少し寝ていいよ。」

と言った。その後、お母さんは眠り、ぼくはれんりをリビングであやしたり一緒にブロックで遊んだりした。時計を見るとまだ五時だった。ぼくもまだ眠かったけど、お母さんに少しでも休んでほしかった。

ぼくは時々お母さんと一緒に双子を連れて買い物に行く。その時、知らないおばさんが双子の乗ったベビーカーを見ながら、

「あらー、双子なの？かわいいねー。お兄ちゃんえらいねー。」
と言った。ぼくは心の中で（でも大変だよ）と思った。

友達がぼくの家に来ると、みんなすぐに双子と遊びだす。双子が珍しいのか、双子がいいな、一人ちょうだいと言う子もいる。でもそれはぼくの大変さや苦勞を知らないから。

双子が泣いている時に抱っこしたり、お風呂で双子を洗ったり体をふいてあげたり、保育所の送迎を手伝ったり、いろいろ忙しい。でも、ぼくは嫌がったりしない。だってお母さんはぼくがやっている以上に毎日頑張っているから。ぼくが双子の面倒を見ているとお母さんは笑顔になる。そして、お母さんは、ぼくに「ありがとう。」と言う。その言葉を聞くたびに疲れも全て消えてまた頑張ろうと思える。いつも七人という大家族のために頑張っているお母さんを少しの時間でもいやしてあげられるならぼくは何でもしたいし、頼ってほしいと思う。大変な双子でも学校から帰って双子を見ると元気になれる。こんな天使のような双子を産んでくれたお母さんにとっても感謝してます。だから、お母さんもぼく達、家族の家事を頑張ってほしい。もし、お母さんが困っていたり疲れたりしたらぼくが助けてあげたい。

お母さん、奇跡の確率で生まれた天使のような双子、そしてぼくとあと二人の優しい心を持った計五人兄弟をこんな幸せな家庭に産んでくれて本当に本当にありがとう。

平岡 稜貫ひらおか りょうかん